

地学と切手

アントワープ
ダイヤモンド
国際市記念切手
P. Q.

ダイヤモンドは全世界産出の95パーセントまでダイヤモンドシンジケートによって独占され ロンドンにおいて月1回ダイヤモンド原石が売出される。こうしてロンドンで購入された宝石用ダイヤモンド原石は、バイヤーの手から世界各地の研磨工場に渡され、各種デザインにカットされて宝石商から売り出される。ダイヤモンド研磨の基礎は15世紀後半にオランダ人 ルードイヒ ヴァン ベルンハムによって作り上げられた。ベルンハムはブルジュで仕事をしたので、同地が研磨業の中心となったが、その後、次第にアントワープとアムステル

ダムに中心が移り、第二次世界大戦まではこの両市が競争して隆盛をきわめていた。特にベルギーではアントワープ以外の各都市でも一種の家庭工業として小規模の工場が多く、あたかも国家的工業を形成するに至っていた。しかし戦後にはオランダ、ベルギーの外にも、ニューヨーク周辺、イスラエル、ドイツ、イギリス、南ア連邦などと世界各地に研磨工場が分散し、日本にも山梨県韭崎に工場があるが、依然として世界のダイヤモンド中心地であり、熟練した宝石加工で知られている。装飾用ダイヤの輸入のおかげで、14,000人以上のダイヤモンド職人がアントワープ地方で働いており、ベルギーで世界のダイヤモンド労働力の50パーセントを占めている。ここではあらゆる型、あらゆる質のダイヤモンドを探すことが出来、どんなカットでもできるという。切手は1965年にアントワープで開かれたダイヤモンド国際市を記念して発行された。婦人の指にさんぜんと輝くダイヤがテーマである。

中央のダイヤはブリリアントカットで、親指と人差し指の間のはアーキーズ・カット、いずれも20カラット以上はあろうというものである。



カムチャツカの火山切手

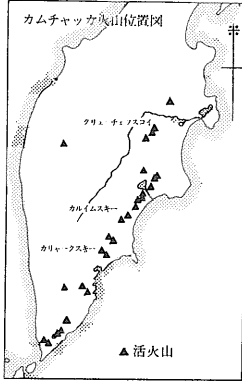
P. Q.

ソビエトでは1964年に3種の山岳切手が発行された。それは2種がコーカサス山脈の1種が天山山脈の山だった。翌1965年に3種の火山切手が発行されたが、いずれもカムチャツカの火山である。4kがクリューチェフスカヤ、12kがカルイムスキー、16kがカリャークスキー火山である。

太平洋をとりまく火山帯の一部であるカムチャツカ半島にも火山が多く、活火山でカタログに記載されているのも28にのぼっている。それはおもに東側に並んでいるが、ただひとつ西側にイチンスキーが位置している。

クルューチェフスカヤ 4k

火山というより火山群であり、クリューチェフスコイとも呼ばれる。活火山としてはシュベルーチに次いで北から2番目に位置しており、標高4,850mでカムチャツカ半島の最高峰である。火山はカーメン(4,585m)、プロスカイヤ(4,108m)



と並んでいる円錐形であり、頂上には直径約600mの火口を有している玄武岩の成層火山である。頂上は常に氷によっておおわれ、火口内も噴気孔のある地点以外は氷である。クルューチェフスカヤの噴火は1697年から記録に残され、以来約60回活動した。おもに中央火口の活動であるが、側火口の活動も多い。1951、53、56年の噴火では中央火口が活動して、側火口から熔岩流が流れる型の噴火をした。1966年には北側斜面に新しく寄生火山が出来、1月半の間に流出した熔岩は1億m³、放出された炭素化合物は約30万トンと推定されている。

カルイムスキー 12k

海拔1,486mで直径約5kmの同名のカルデラ中央にある安山岩～石英安山岩からなる成層火山である。カルデラ壁はカルデラ底から50～150m高く、切手の図案はカルデラ壁の上から望んだものであろう。頂上には直径約200mの火口があり、噴火は1771年以来約25回知られている。噴火は激しい活動と共に火山灰を多く放出し、熔岩の少ないブルカノ型であるが、北斜面には真新しい熔岩流があって、カルデラ底を埋めている。

カリャークスキー 16k

海拔3,456mで、第四紀初めに生成した火山と考えられ、山体は相当に侵食されて、放射状谷が深い。安山岩からなる成層火山で、頂上西側に小火口があり、山腹には8コのシンダーコンがある。活動は通常噴煙はみえないが、近くのアヴァチェンスキー火山が活動すると噴煙がみえるようになり、時には高く上るといふ。